藤代市長との懇談　グループから提案した内容　　2024 年 11 月 15 日

印西市環境推進市民会議グリーンインフラグループ

（記録　小山）

日時　２０２４年１１月１５日　15 時 30 分～16 時 15 分

会場　会議棟２０４

参加　藤代印西市長、岡本環境保全課長、海老原係長、五十嵐さん

　　グリーンインフラグループ　福井、小山、渡辺、富川

１　印西市の現状

谷津と台地が織りなすすばらしい里山環境を有し、都市と自然が共生する世界に誇ることができる住環境、企業環境にあるまちである。

しかしながら、近年の農業の衰退により、とりわけ、農耕が負担となる枝谷津については、耕作されない田んぼが増え、みよ（水路）や斜面林の管理もされなくなったこと、谷津に浄化された水を補給する台地が、雨水の地下浸透に配慮せずに開発されつつあることなどにより、谷津の水辺環境が劣化し、里山の生物多様性が危機的状況にある。

このままでは、ホタルやカエルなど、かつてはどこにでもいたが、今は都市近郊ではすっかり失われている自然が、この関東圏に位置しながら里山環境が残っている印西市においても失われてしまい、印西市の魅力が大きく減じることになる。自然があってこそのずっとすみたいまち印西を、将来にわたって確実に残していくために、（仮称）印西市の谷津と台地の生物多様性を守る条例もしくは、それに準じる実効性ある指針、規程などを策定する。

それによって、ホタルなど、絶滅の危機に瀕している希少生物が生息・生育している枝谷津のうち、とりわけ耕作放棄された谷津田を保護・保全する具体的な施策を策定する。さらに谷津の水量・水質を確保するためには、台地の保全が不可欠なので、谷津と台地をターゲットとした取り組みが必要である。

２　条例等制定の目的

印西市環境基本計画及び印西市緑の基本計画に基づき、印西市に残る谷津と台地を中心とした里山の生物多様性保全とその推進に必要な事項を定め、市、市民、事業者及び土地の所有者等（土地の所有者、管理者又は占有者をいう。以下同じ。）との協働により、豊かな自然の恵みを受け潤いと安らぎを感じられるまちづくりと現在及び将来の市民の健康で快適な生活の確保に寄与することを目的とする。

３　条例等に組み込む内容素案

①　（仮称）里山課（防災、減災、農業、景観、生物多様性、ウエルビーイングなどを含むので、グリーンインフラ課とすることも検討）を設置し、里山保全に関係する部署を横断的に動けるようにする。

②　私有地については、所有者と当該地域を守る市民団体との仲介するシステムの設置（仮称里山課など）、助成金（草刈り費用や水費用）の予算措置（森林環境贈与税、ゴルフ利用税等の通年の予算及び市の予算、利用できる助成金の提案）

③守るべき種の選定（絶滅寸前にある、ゲンジボタル、ヘイケボタル、ニホンアカガエル、アカハライモリ、その他動植物）

④モデル地区の選定と選定基準、選定したあとの財政措置あるいは関係団体のかかわり方

モデル地区は、印西市所有の管理地のほか、耕作放棄されており、なおかつ絶滅危惧種の生息が確認されているかもしくは守っている市民団体や企業が存在する場所とする。選定にあたって、市民団体、企業、専門家、所有者、行政等による協議会等を設置する。

なお、来年度から設置される「里山の水循環と生物多様性の保全 及び地域活性化のための官民連携事業」の協議会との整合性を図り、印西市の里山保全にとってより効果のある協議会とする。

⑤台地の雨水浸透機能を守るための開発基準の設置（雨水浸透の道路、雨水池や雨水枡については、底をセメントとせず、地下浸透させるなど）。とりわけ進出企業や宅地開発を対象とした緑化基準や開発条件（連単制の制限、雨水地下浸透の強化など）の印西版を策定する。

⑥里山を守る団体が活動しやすい環境の整備

・軽トラやチッパー、大型の草刈り機の貸し出し

・里山保全（田んぼ作りも含む）にかかわりたいボランティアの養成

・ボランティアが自由に活動できるシステムの構築（団体に属さずとも、自分の都合で参加できるシステムなど）

・竹林の整備と活用、バイオ炭作りなどのシステムの構築。

⑦バイオ炭は J クレジット利用を検討し、クリーンセンターに炭作りの場を設けるとともに、農業や市民団体との連携を図る。

⑧教育機関において、保全体験を実施し、保全の必要性を訴える。遊休田の田んぼ作りや田んぼビオトープ作り、雑木林の手入れなど。

⑨田んぼダムや地下水涵養のため、遊休田の草刈り、耕耘、水入れなどに助成金を出す。

⑩市民には、水庭作りやビオトープの庭作りなどを推奨する。

以上